【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【公開番号】特開2006-278464(P2006-278464A)
【公開日】平成18年10月12日(2006.10.12)
【年通号数】公開・登録公報2006-040
【出願番号】特願2005-91958(P2005-91958)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｆ　27/28　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｆ　27/28　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成20年3月28日(2008.3.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
一対のコイルボビンを備え、一対のコイルボビンの一方は、円筒状の胴部と、前記胴部の両端に形成された一対のツバと、前記胴部に巻回されたコイルと、前記一対のツバのうち前記一対のコイルボビンの他方に対向するツバに形成され、前記対向するツバに関して前記胴部と反対側に突出した２つの端子片と、前記２つの端子片に夫々設けられ、前記コイルボビンのツバの外側に突出すると共に、前記コイルの端部が巻回された２つの端子とを備え、前記一対のコイルボビンは、前記端子片が互いに組み合うように組立てられるコイルボビン装置において、前記端子片は、前記コイルの端部を保護すべく前記コイルボビンのツバの外側に突出した端子片突出部を備えることを特徴とするコイルボビン装置。
【請求項２】
前記端子片突出部は、前記一対のコイルボビンが組立てられたときに、前記一対のコイルボビンの他方における端子片に対向する側において、前記端子に隣接して設けられていることを特徴とする請求項１記載のコイルボビン装置。
【請求項３】
前記端子片突出部は、前記一対のコイルボビンの他方における端子片の反対側に設けられていることを特徴とする請求項２記載のコイルボビン装置。
【請求項４】
前記対向するツバに形成され、前記コイルボビンのツバの外側に突出すると共に、基板が当接する基板当接部を備え、前記基板当接部は、前記端子片突出部より前記コイルボビンのツバの外側に突出していることを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１項に記載のコイルボビン装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
上記目的を達成するため、請求項１記載のコイルボビン装置は、一対のコイルボビンを備え、一対のコイルボビンの一方は、円筒状の胴部と、前記胴部の両端に形成された一対

のツバと、前記胴部に巻回されたコイルと、前記一対のツバのうち前記一対のコイルボビンの他方に対向するツバに形成され、前記対向するツバに関して前記胴部と反対側に突出した２つの端子片と、前記２つの端子片に夫々設けられ、前記コイルボビンのツバの外側に突出すると共に、前記コイルの端部が巻回された２つの端子とを備え、前記一対のコイルボビンは、前記端子片が互いに組み合うように組立てられるコイルボビン装置において、前記端子片は、前記コイルの端部を保護すべく前記コイルボビンのツバの外側に突出した端子片突出部を備えることを特徴とする。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
請求項４記載のコイルボビン装置は、請求項１乃至３のいずれか１項に記載のコイルボビン装置において、前記対向するツバに形成され、前記コイルボビンのツバの外側に突出すると共に、基板が当接する基板当接部を備え、前記基板当接部は、前記端子片突出部より前記コイルボビンのツバの外側に突出していることを特徴とする。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
請求項１記載のコイルボビン装置によれば、端子片に備えられた端子片突出部は、コイルの端部を保護すべくコイルボビンのツバの外側に突出しているので、端子片突出部は、コイルの引出し線を隣接する端子片から保護し、もって組立時の引出し線の断線を防止することができる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
請求項４記載のコイルボビン装置によれば、対向するツバに形成され、コイルボビンのツバの外側に突出すると共に、基板が当接する基板当接部は、端子片突出部よりコイルボビンのツバの外側に突出しているので、端子片突出部に乗り上げたコイルの引出し線を端子片突出部と基板の間に挟むのを防止し、もって基板設置時の引出し線の断線を防止することができる。